

ワインファーストのDX推進への取組

制定日：2025年8月1日

ワインファースト株式会社

代表取締役社長 向山 敦



【経営理念】

ワインファーストのパーザス

より良い地球環境と労働環境を次世代につなぐ

リサイクル事業である電炉メーカーを強くすることで、資源の有効活用・循環型社会を実現し、地球環境の改善に貢献します。

その過程で生まれる利益を労働環境の整備に還元し、よりよい労働環境を次世代につなぐことで持続可能な企業を目指します。



【DX基本方針】

ワインファーストは、ICT技術の活用による業務効率化が今後の経営において必要になっていると考えているため、デジタル技術の活用およびお客様への提案力の向上を進めるため以下のDX基本方針を定める。

◎DX化が会社に必要な理由

ワインファーストの経営理念にある通り、よりよい労働環境を次世代につなぐことで持続可能な企業を目指しており、DX化することで、

- ①営業担当者の内勤業務を減らしお客様に注力する機会を増やし、お客様の情報を常に最新のものに更新していくことで、より質の高い提案をお客様に提供できる環境を整えることで、営業担当者のやりがいにつなげる。
- ②内務担当者の業務効率を上げることで、多くの業務を業務時間内にこなすことを可能とする。
- ③上記①と②を実現することで、従業員の満足度を上げ、定着率を上げることや新規採用をし易くしていく。

◎DX化の方向性

- ①社内の業務効率化によるコスト削減を図りつつ、デジタル技術活用による効率的なお客様へのアプローチをし潜在ニーズを獲得していきます。
- ②CRM等のデータを活用した経営戦略を行い、意思決定を図っていきます。
- ③ICT技術の活用は、従業員にとっても必要不可欠な技術であるため、ITリテラシー向上を図る上で研修等を積極的に取り入れます。

【DX戦略】

1. 営業プロセスのデジタル化

- ・CRM（顧客管理システム）の活用により、顧客情報を一元管理し、営業活動を効率化する。
- ・CRMデータをケーススタディの継承や、新人教育ツールとして活用する。
- ・SFA（営業支援ツール）を活用し、営業の進捗管理やデータ分析を自動化する。

2. AI・自動化ツールの活用

- ・営業ルート最適化ツールを活用し、営業にかかる移動時間を効率化する。
- ・議事録等の自動作成ツールを活用することで、議事録の慣習化と事務時間の短縮をはかり、効率的な商談と時間の効率的活用を実現する。

3. データ活用による戦略的営業

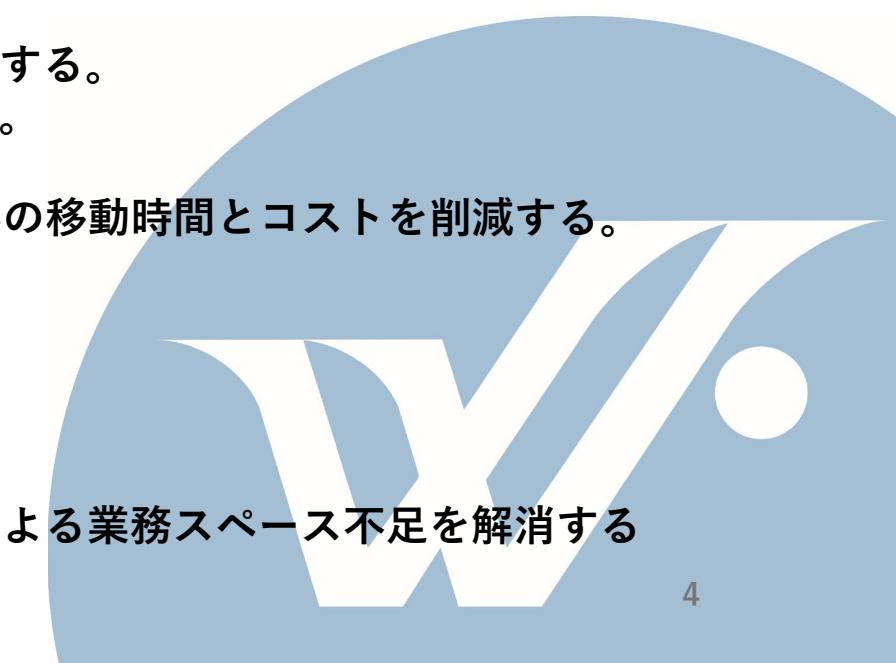
- ・BIツールを使い、営業データを分析して最適な顧客へのアプローチを設定する。
- ・AI分析により、顧客分析を行い、効率的かつ効果的な営業活動を実施する。

4. 非対面営業の強化

- ・オンライン面談ツール（Zoom、Teamsなど）を活用し、会議や打合せへの移動時間とコストを削減する。
- ・デジタルマーケティングを活用し、リード獲得を自動化する。

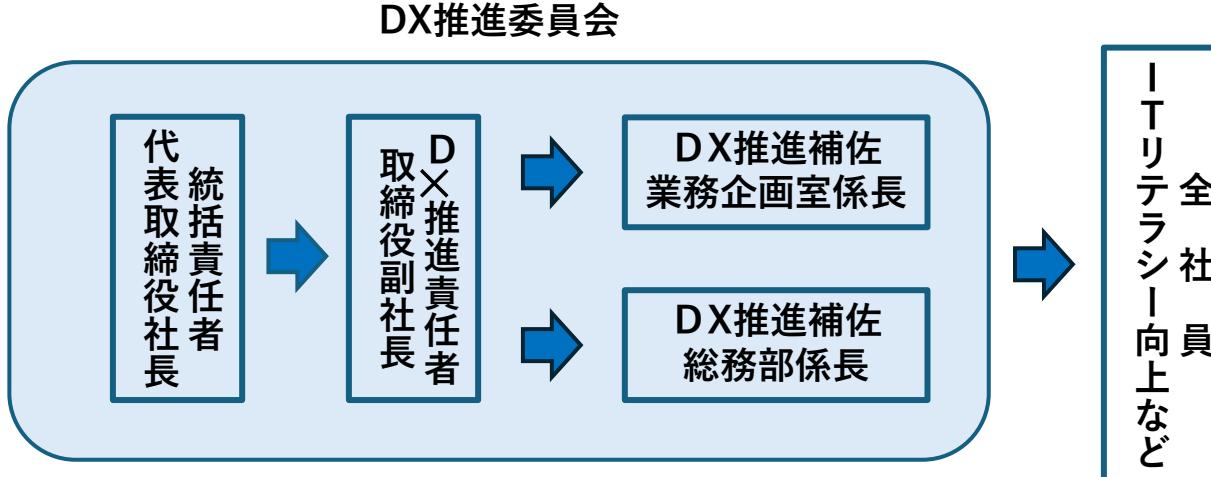
5. 業務のペーパーレス化

- ・電子契約システムを導入し、契約業務を効率化。
- ・電子帳簿保存システムを利用し、紙書類から電子保存を簡略化
- ・クラウドストレージを活用し、資料の共有・管理をスムーズにおこなう。
- ・請求書発行・受取を電子化し、キャビネットスペースを削減し、人員増による業務スペース不足を解消する



【DX推進体制】

- ・代表取締役社長を統括責任者とし、DX推進委員会を立ち上げ、取締役副社長をDX推進責任者とし、業務企画室係長・総務部係長を補佐として任命し、DX推進タスクにおいては委員会で協議を行う。
- ・DXは全社的な取組みであるため、社長をトップとして業務企画室を中心に各部門（総務部、営業部、購買部など）がそれぞれ連携を行い、データの共有を行える仕組みを構築していく。
- ・全社員のITリテラシー向上のための研修を実施していく



【システム環境体制】

1 環境整備体制

社内システムの設計、開発企画については、DX推進委員会を窓口とし外部業者を活用し推進を行います。

システムの導入・改修時には要件定義から本稼働までの共同プロジェクトとし外部業者と一緒に立ち上げて進めていきます。

システムの導入・改修は、全社的な検討を実施し、費用対効果をもとに実施判断を行うこととし、活動内容をDX推進委員会にて検証を行います。

2. 具体的な方策

当社では2020年よりクラウド型SaaS（Microsoft 365、Eight Team【名刺管理サービス】、楽々精算、クラウド型CRM、レコル【勤怠管理システム】、PCAHub【電子給与明細・電子年末整】）を導入しており、今後もクラウド型アプリケーションを中心に積極的に業務に取り入れ業務効率化を図っていきます。

1. 業務システムの全体最適化
2. 業務プロセスの改善
3. 業務遂行体制の向上



【DX戦略の達成度を測る指標】

半期ごとに達成状況を確認し、PDCAサイクルにより見直しを実施する。

1. 労働生産性の向上

- ・事務作業の業務改善・・・事務デジタルツールの有効導入数と有効見直し数を事前に設定し、達成度合いを計る。
- ・事務所外での働き方・・・営業職が事務所外で仕事が完結できるツールの導入度合いと利用率を計る。（クラウドストレージ・CRM・自動申請システム、Teams等の利用等）

2. DX人材レベルの向上

- ・DX人材の育成・・・DX人材の育成度合いを定量的に設定し、人材候補の目標に組み込み、達成することで成長をしていくシステムを構築する。
- ・外部企業との連携・・・社外研修や勉強会等の参加件数を人材候補の目標に組み込み、達成することで成長をしていくシステムを構築する。

【実務執行総括責任者による効果的な 戦略の推進等を図るために必要な情報発信】

ワインファースト株式会社では、加速するデジタル化の環境に対応してくため、従来の業務プロセスやシステムのデジタル化を推進しています。

DX化により従業員間の連携を強化し、働きやすくより効率的に業務に取り組めるよう環境を整えてまいりました。また、従来のアナログで行っていた経費伝票処理や勤怠管理などの事務業務をペーパーレス化・自動化し一元管理することで業務効率化を行っております。

上記の改善により、今までよりもさらにお客様の困りごとやご要望に真摯に向き合い課題解決をお手伝いできるようになりました。当社は今後も、仕事の改善・改革を継続し、お客様満足度の追求、社員満足度の向上に取り組んで参ります。

